

ヒストリーシアターよみとき解答

*ヒストリーシアターのタイトルの横に示した**史料**などの記号は、各よみときの対象の種類を意味します。どのページでどのような種類のよみときの力を養うことができるのかを示しているの、興味のある分野に挑戦してみましょう。記号は**史料**のほか、**絵画****彫刻****建築****工芸****地図****風刺画****写真****総合**があります。どれにも該当しない対象については、近似する記号に分類しています。**総合**は、ヒストリーシアター内の資料を総合的に読み解くものを指します。

p.55 **史料**「目には目を、歯には歯を」

解答 訳文が「目には目を」を示しており、同害復讐の原則が読み取れる。また法典碑頭部に両者が並んでポーズをとっているが、玉座に腰かける太陽神シャマシュが、ハンムラビを「王」に任命し、同時に神の掟である法をこの王のみが実行できるよう授けていることが読み取れる。

p.56 **総合** 王(ファラオ)は神の化身

解答 ピラミッドのような建造物をつくりあげるには、基礎となる単位や知識・技術が必要であったが、単位については、人の腕の長さを基本としたキュービットを用いた。資材の調達、労働者の動員、作業の組織化、単位の設定を行うことができたのは、王の権威があったからであった。

p.58 **史料**「私のほかに、何者をも神としてはならない」

解答 ヘブライ人の戒律の最も基本となるのは神がモーセを通してヘブライ人に授けた『十戒』であり、神との関係からみた特色は彼らの神を唯一と定めたことと、信仰のための偶像を一切否定していることなどである。

p.60 **地図** 王の中の王

解答 図②はバクトリアの使節。下の①の地図でバクトリアの位置を確認すると、現在のアフガニスタン北部に相当する。パルセポリスまで直線距離にして1500km程度であることから、アケメネス朝の広大な領土を実感できる。

p.61 **工芸** 奈良に残るイラン文化

解答 弓の形態、馬の足、帝王の顔、帝王のパルティアン=ショットなどが類似点としてあげられる。

p.63 **絵画 工芸** 母なる海から生まれた文明

解答 図②には、たこが描かれている。図①のイルカや魚が海中で自由に泳いでいる姿からも、クレタ文明がオリエントとは異なる海洋文明であることがわかる。壺絵や壁画の色彩はあざやかで自由な筆致で描かれており、明るくのびのびとして、写実的かつ躍動感のある表現になっている。クレタやギリシアの人々はエーゲ海や地中海のさまざまな海の恵みを享受し、また貿易や植民活動などを活発に行って独自の歴史的地中海世界を構築していく。

p.64 **絵画** アテネ民主政の主役たち

解答 図①の重装歩兵は兜・すねあて・槍・盾の武具を身につけ、経済的に武具を自弁できる平民(有産市民)で構成される。図②③の船のこぎ手は、武具は不要で、平民で最も貧しい人々である無産市民が活躍していた。

p.66 **絵画** ギリシアとオリエントの覇者、激突す

解答 アレクサンドロス。

p.68 **建築** 身近なギリシア文化

解答 図④のコリント式。

p.70 **絵画** 古代ローマを表す4つの頭文字 S.P.Q.R.

解答 図①の中にいるのは◎。国政の中心になったのも◎で、元老院議員としてローマを統治した。

p.72 **彫刻** ローマで実権をにぎったのは誰だ？

解答 オクタウィアヌスはプリンケプスとして共和政の伝統を尊び、元老院との共同統治を形式的にとったが、実質的には強大な権力者として君臨したこと、その業績によりさまざまな形(図⑤⑥)をとりながら神格化がさかんに行われたことがある。

p.74 **絵画** 十字架のイエス

解答 「ユダヤ人の王様」のよび名は、イエスをローマ帝国への反逆者とし、メシアを僭称してユダヤ民衆を扇動する者にとらえ、ユダヤの支配層からの憎悪を侮蔑的に示したものである。

p.75 **建築** 都市をうるおす水

解答 図③にあるように3層のアーチ状の最上段部が水が流れる。水は公共用水汲み場・公共浴場・泉などで使用された。

p.79 **総合** 偉大なるブッダの一生

解答 ブッダ(ガウタマ=シッダールタ)はシャカ族の王子として生まれ(図①)、社会階層はクシャトリヤ(図①①)。仏教が誕生して広まった背景には、当時台頭していたクシャトリヤやヴァイシヤが、自分の行動・活動を支える(正当化してくれる)宗教を待ち望んでいたという状況があった(図⑥)。

p.80 **建築 彫刻** 仏像はギリシア文明から生まれた？

解答 インドでは古来仏像をつくる風習はなく、図①のストウパや図②の法輪で象徴して表現していたが、西北インドのガンダーラ地方でヘレニズム文化(ギリシア彫刻)の影響を受け、1~2世紀に図③のような仏像がつくられるようになった。

p.84 **彫刻 写真** 文明のはざまに生まれた独自世界

解答 図①『ラーマヤナ』はインドの物語であり、東南アジアは4~5世紀からインドの影響を受けていた(「インド化」)。一方、図②の孔子廟と図③の漢字をもとに作成されたチューノム(字喃)から、東南アジアの中でベトナムだけが、中国の影響(「中国化」)を強く受けていたことがわかる。

p.88 **絵画 工芸** 祭政一致の神権政治

解答 酒器やかぶとが青銅製。支配階層が独占していた青銅器などの豊富な副葬品や王墓の規模から、殷王の財力と権力が、極めて強大であったことがわかる。とくに、多数の生活用具や従者、兵士、動物などを埋葬していることは、死霊の復活が信じられ、王が復活後、生前と同じように生活し、かつ権力を保持するためであったと推測できる。

p.89 **彫刻** 拡大する農地

解答 農具は鉄製の犁。鉄で刃が鋭利なので深耕が可能となった